

「葛西三枚洲」のラムサール条約登録に向けて

飯田陳也

葛西臨海・海浜公園鳥類園のオープンに合わせて、1995年から日本野鳥の会東京の月例葛西臨海公園探鳥会を開始した。その後4年間程のデータを見たWWFJの東梅貞義さんは「これは素晴らしい。2つもラムサールの基準を満たしている、しっかりデータをとって登録を進めては…」と助言してくれた。その期待に応えて、葛西の担当+有志により「葛西東渚・鳥類園友の会」を作り、2000年にWWFJの助成を受けて調査活動を展開し、翌年に報告書提出した。

一方、東なぎさの魅力を伝え広げるため企画した観察会は“立ち入り禁止の壁”に塞がれ実現しなかったが、都漁連内湾釣漁協議会（内湾漁協）と一緒に実施した海浜清掃（ゴミ拾い）後の観察会なら立入OKとなり18年続いている（これがのちに漁協の理解を生むベースになったと思う）。

このように、葛西三枚洲のラムサール条約登録の夢は実に18年間見続けてきた。割と気が短い私が良く続けてきたものだと思う。この間、東京都とはいくつか対立もあった。目ぼしいところでは石原知事就任時の「観覧車」問題、同じ石原知事が2016年のオリンピックに立候補した時、カヌースラローム競技場建設に「公園の豊かな自然を1/3潰してしまうことは見過すことは出来ない」と声をあげた。その時はリオデジャネイロに決まり決着なしだったが、2020年の東京開催決定時には多くのマスコミが野鳥の会の主張を取り上げることとなり、世論に押されて、会場は公園外の下水道局の土地に変更となった。

このような開発がいつまた繰り返されるか分からない“ラムサール登録を考えないか”と、昨年4月頃ラムサール・ネットワークジャパン（ラムネットJ）の金井裕さんから打診があり、6月19日、鳥類園のレクチャールームで開催したシンポジウムで、野鳥の会東京として「葛西三枚洲のラムサール条約登録」に向けての運動を推進すると発表した。また、去年は、江戸川区に於いて5ヶ月間にもわたる野鳥企画展示展が実現し、44,800人の来場者があり、区民の理解も進んだ。さらに、12月18日に法政大学で実施した都民向けのシンポジウムは200名を超える参加者があり、マスコミ4社が取材しNHK「ひるまえホット」で今年の1月5日に放映され、2月18日付読売新聞、4月13日発行の週刊新潮・東京新聞の掲載に結びついた。この間、歩は鈍いが登録に向けて着実に進んだ。

このように広がりを見せる中、今年の2月21日、内湾漁協幹部への説明会で「野鳥の会のやろうとしていることはわかった、また心配事が出てきたら相談に乗ってほしい」と理解が示された。そして、区議会で江戸川区長は「葛西沖は、国内でも有数の野鳥の飛来地、登録されるよう努力する」と答弁。3月15日の都議会では小池知事が「国や地元の区と連携して登録を推進する」との答弁があり、都の関係部署が動きを開始した。これに合わせて、江戸川区も環境部をはじめ関係機関が準備のための打ち合わせを要請、4月6日に7人の区の幹部が出席し、都の要望に応じられるよう準備が進められた。そして4月26日には都の窓口の港湾局に推進団体代表が出向き、要望書の提出と説明を実施した〔写真〕。登録の準備はこのような着実に進んでいるが、2018年10月に開かれる「ドバイ 第12回ラムサール条約締約国会議（COP13）」まではスケジュールはタイトで、都の要望を環境省が受け止め、来年3月までにラムサール事務局へ申請を出してもらうにはまだやるべしそうだ。引き続きご注目を！（いいだ・のぶや）

